

『ソク・サバーイ！ カンボジア・サッカー見聞録～牛の向
こうに未来が見える～』 Vol. 6

● J F Aサッカー1級インストラクター 唐木田 徹



なんちゃってF I F A——スポーツオールの大会は連盟主催ではないので、
審判章はつけません

どうやら、カンボジアの乾季は風から始まるようです。ようやく
中途半端な雨が降らなくなったと思ったら、今度は毎日のように強
い風が吹いています。雨季の前（5、6月）は、風が吹くとすぐに
凄まじい通り雨が降ったのですが、この時期は風だけです。そのお

かげで体感温度が下がり、いままで感じたことのないくらいの寒さです。でも15度以上はあり、半袖で大丈夫なのですが。

11月でCPLが終わり、あとは12月末の研修会まで“少し一息つけるかなあ”と思っていたところ、またもやカンボジア流で、「来週からスポーツオールの大会がある」と言われました。

“何だそれ？ 聞いてないけど。早く言ってよ！”



用具チェック。同系色シャツ、同色ストッキング……普通です

スポーツオールの大会とは、教育省スポーツ振興課（正式名称ではありません）が主催するプノンペン市内サッカー愛好家グループ親善大会、といえはよいでしょうか。会社（と思しき）チームとか

大学OBチーム、ともだちチームなど、特に制限のないチーム構成で大会が行われます。CPLに登録された選手のみ参加できません。40チームが4チームずつ10グループに分かれてリーグ戦を行い、その結果で2次ラウンドへ進みます。例によって、午前というか朝7：30から2試合、午後2：30から2試合です。土日計4試合……。

“これも仕事……?? だよね、やっぱり!”



女性審判も担当します（1人しかいませんが）

この大会では、若手や初心者の審判を割り当てるそうです。それは良いことなのですが、「初心者」のレベルが分かりません。日本の

ようにきちんとした4級取得講習会など行われていないので、どのくらいの知識があるのか全く分かりません。さらに選手のレベルが千差万別で、ゲームの難易度も想定できません。技術力の予測もさることながら、体力レベルも然り。80分ゲームですが、60分を過ぎるとあちこちで足がつった選手が倒れています。4 t hを含め、いちばん大変な（そして教えにくい）マネージメント能力が問われます。C P Lの方がはるかに楽です。



かなりご年配ですが、プレーは確か！（元代表だとか）

案の定、開幕戦からいきなりトラブル発生です。後半半ば頃、フィールド中央でややラフなプレーがあり、主審はよいポジションか

らすぐさまファールを採りました。その直後、反則された側が報復の蹴り、その後は両ベンチから全員飛び出してきた乱闘です！

このシーンでは、主審がよく対応しました。彼はC P Lで主審をしているので落ち着いて全体を把握し、両チーム2名ずつ（最初の2人とその他乱闘で悪さが顕著だった2人）を退場にさせ、残りの時間を無難に終わらせました。



テクニカルエリア前にボトルが散乱。4 t hのお仕事です（ベンチに注意しましょう）

誰もが一度は体験する場面、とは言えないですね。人によっては（特に日本では）、一度も経験することなく審判人生を終えるかもしれません。しかし、われわれ審判は経験したことがないこと、想

定していなかったこと、想定以上のことに直面した時にいかにより良い解決策を見いだすか、それも短時間に答えを出さなければいけない使命があります。

こういったアクシデントに、スマートに対応できる審判。クールですね。

さて、あなたは？

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。